

## SME日本支部 創立55周年を祝して (歴代支部長祝辞)



森 雅彦

第39代支部長  
DMG 森精機株式会社  
取締役社長

### SME 日本支部55周年記念を祝して

SME 日本支部が創立55周年を迎えられましたことをお慶び申し上げます。

1962年にSME日本支部の前身であるASTME日本支部が発足し諸先輩の努力で発展していきましたが2000年頃をピークに会員が減少し運営存続のピンチにいたりしました。私とSME日本支部の深い関わりは、2011年に故垣野京大名誉教授のご指導のもと支部建て直しを最大の目標として支部長を仰せつかったことにはじまります。その当時は、東日本大震災、欧州でのギリシャ危機などさまざまな問題がありましたが、皆様の全面的な協力を得ることができ会員を増やし、USA本部とのより密接な連携を行うことで、何とか危機を回避することができました。その後に長江支部長、青山支部長のリーダーシップのもと事務局の世代交代も完了しました。月例会、資格認定試験についても参加者が増加し充実した内容になってきていること、安定した運営ができるようになってきたこと、故垣野先生の思いを何とか実現しようと役員各位ならびに事務局が絶え間ぬ努力をおこない、会員の協力を得ることができたため、このような成果が出てきていることと思います。

近年の産業界や学術の世界では欧米発のIndustry 4.0、IoTが大きな注目を集めており、国際的な学会や会議での話題がますます重要になってきております。SME日本支部では英語での資格認定試験を長きに渡り継続しており、エンジニアの育成に非常に有用で、さらにアメリカ本部からの最新情報提供や月例会での革命的な技術紹介など、これからもSME日本支部の活動を期待しております。最後にSME日本支部の60周年以降に向けた更なる発展を祈念いたします。

## SME日本支部 創立55周年を祝して (歴代支部長祝辞)



### 長江 昭充

第40代支部長  
ヤマザキマザック株式会社  
取締役副社長

### SME 日本支部創立55周年によせて

SME 日本支部が創立55周年を迎えられましたこと心よりお慶び申し上げます。

私とSMEとのつながりは、1984年に友人に誘われてロスアンジェルスでのSMEの講演会に参加したことから始まりました。当時のSMEはWestecやEastecなど全米で年に数回工作機械の展示会を主催したり、又数多く講演会を開き各種の出版物を刊行するなど米国の生産技術界を先導する極めて勢いのある団体でした。2004年頃にSMEの認定する資格試験を受験することになり、半年ほど会社の若い技術者と共にSMEの英語の教科書を勉強し無事にCMfgEの認定を受けることができました。その後SME日本支部創立50周年の年である2012年6月にSME本部の総会にてEli Whitney Productivity Awardの表彰を受けさせて頂きました。この賞をきっかけにして、2013年には支部のエレクト(副支部長)にご推薦いただき、また2012年から2年間支部長を勤めさせて頂きました。

エレクト就任当時のSME日本支部は財政的に非常に厳しく、5年ごとに開催される創立記念行事のなかで企業や個人からいただく寄附金で、その後の5年間をやりくりするという危機的な運営状態でした。この状況には大変不安を感じましたが、前支部長であるDMG森精機の森社長による、会費などについての本部との値引き交渉の成果や経理専門家を派遣しての支部会計の見直しがあり、また事務局の献身的な努力や関係者の絶大なるご助力などにより、私が支部長を退く頃には周年行事の寄附金に頼ることなく年度の収支をほぼプラスマイナスゼロにすることができるようになりました。

また支部長時代には、支部をより活性化し発展させたいという思いから、ステアリング委員会にて、いくつかの提案を行いました。たとえば、資格試験合格証授与式の再開、支部からの本部Awardへの毎年の推薦、月例会の活性化や、ライブラリ「日本の工作機械を築いた人々」の再開などです。結果として現在では、皆様のご助力・ご協力により実行することができております。このことはSME日本支部および支部関係者の底力を示すものと思っております。私は2015年度で支部長を退きましたが、今後とも微力ながらSME日本支部を支えさせていただき所存であります。バトンタッチしました慶応義塾大学の青山英樹先生のリーダーシップの下で、より委員会活動も活発になり、新たに樺山さんに事務局長として支部活性化に努めていただいているのを見て大変心強く感じております。

今後ますますSME日本支部が発展し、60、70、・・・100周年と継続してお祝いができることを祈念いたします。

※ 2016年以前はSME東京支部という呼称でしたが、文中では日本支部として記載させて頂きました。